

胃ガン

ペプシノゲン法で早期発見 内視鏡治療なら胃を温存

2cm以下の胃ガンは 内視鏡で切除できる

胃ガンは日本人が最もかかりやすいガンのひとつ。胃の内側にある胃粘膜から発生する。始めのうち、ガンは粘膜内

にとどまっている。早期胃ガンと呼ばれるこの段階で発見されれば、内視鏡による切除も可能だ。しかし、早期胃ガンで見つかる人は、胃ガンの患者全体の約半分。ガンが胃壁の中に深く進んでいくにつれ、リンパ節や肝臓、腹膜などに転移しやすくなる。

胃ガンで死なないためには、なんといつても早期発見、早期治療に尽きる。早期の胃ガンはリンパ節への転移がほとんどないため、胃を切除することもなく内視鏡による切除（EMR）で完治することが可能だからだ。

EMRは、内視鏡の先端から注射針を出し、そこから生理食塩水を注入して胃ガンを胃粘膜ごと膨らませた後、投げ縄状のワイヤーをかけ、高周波電流を流して焼き切る方法。日本胃癌学会のガイドラインでは、EMRの対象となる早期胃ガンの大きさを直径2cm以下としている。これより大きいと1回で取り切れず、

数回に分けて取る分割切除になる。その場合ガンの広がり方などを診断する病理検査の精度が悪くなる欠点がある。

ただし、「エナナイフ」と呼ばれる特殊なメスを内視鏡で使用するれば、2cm以上のガンでも一括切除が可能になる。「エナナイフは、内視鏡を通して使う電気メスの先端に絶縁体をつけたもの。誤って胃を貫通させる危険がないので、ガンが広くても取り切ることができず。そのため組織の病理診断による治療の判定も確実にできる。エナナイフでガンを一括切除し、病理診断で転移のない早期ガンだと証明された患者さんからは、ガンの取り残しによる局所での再発の報告はこれまでありません」と国立がんセンター中央病院内視鏡部の後藤田卓志医師はいう。

エナナイフはほかに国立がんセンター東病院（千葉県柏市）、諏訪病院（長野県茅野市）、国立病院四国がんセンター（愛媛県松山市）などでも使用され

ペプシノゲン法に関する 問い合わせ先

東邦大学医学部第一内科
三木一正教授室
TEL 03-3768-7242
FAX 03-3768-7241
E-mail: mikik@med.toho-u.ac.jp
http://www.pepsinogen.org/

ている。

内視鏡治療の最大のメリットは患者の身体的な負担を最小限にできることだ。開腹して胃を切除する胃ガン手術では1カ月近い入院期間が必要だが、内視鏡治療ならわずか5日で退院できる。しかも手術後に胃の機能が損なわれない。

胃ガンのリスクを 簡単に検査できる ペプシノゲン法

こうした新しい治療の恩恵を受けるために役立てたい検査が「ペプシノゲン法」だ。

ペプシノゲンは、胃から分泌される消化酵素であるペプシンのもとになっている物質で、2種類ある。胃粘膜が萎縮すると胃ガンが発生しやすくなるが、このときペプシノゲンの一方だけが減少する。血液中の二つのペプシノゲンの濃度を測定し、両者の比率を調べると、胃粘膜にガンが発生しやすい状態かどうか分かる。

ペプシノゲン法は胃ガンそのものを診断する検査ではなく、胃ガンのかかりやすさを知るための検査なのだ。ペプシノゲン法の優れた点は、胃ガンのリスクを数値として表



胃ガンの内視鏡検査
ペプシノゲン値が低下している時には、胃ガンができやすいので、内視鏡で精密検査する。
(撮影協力: 東京都立駒込病院消化器内科)

せることです。実際、血液中のペプシノゲン値が低い人に内視鏡検査を行うと、早期胃ガンの発見率が従来のX線検査のみの集団検診の2倍以上に高まることがわかっています。

ペプシノゲン法研究の第一人者である東邦大学第一内科の三木一正教授はこう語る。

ペプシノゲン法は採血するだけと簡単で、検査結果が30分程度でわかる。しかもX線検査に比べコストもかからない。そのため自治体の胃ガン検診や、職場検診、人間ドックなどでこの検査を取り入れる所が急増中だ。バリウムを飲む必要があるX線検査が苦手な人もこれなら受けてみようという気にさせるようで、胃ガン検診の受診者の増加にも一役買っている。受けた人は市町村の役所の検診担当部署にまずは問い合わせてみるという。

ペプシノゲン法で胃ガンのリスクありと出た場合は、内視鏡検査を受け、実際に胃ガン

があるかどうかを診断する。「胃ガンのリスクの高い人や不安の強い人には、年に1度の内視鏡検査をお勧めします。できたばかりの胃ガンも2年以上たつと進行ガンになる場合があるからです」と、東京医科大学歯科大学光学医療診療部の竹下公矢教授。

一方、ペプシノゲン法で胃ガンのリスクがマイナスと出たからといって、100%胃ガンがないわけでもないことも知っておきたい。ペプシノゲン法はX線検査との併用で、早期胃ガン検出率がアップする。そのため、まずはペプシノゲン法で検査し、マイナスの場



内視鏡治療に積極的な主な医療機関・担当医師

北海道札幌市	北海道勤医協中央病院外科	石後岡正弘	011-782-9111
宮城県仙台市	仙台市医療センター消化器内科	藤田直孝	022-252-1111
東京都文京区	東京医科歯科大学病院光学医療診療部	竹下公矢	03-3813-6111
東京都文京区	東京都立駒込病院消化器内科	神 信廣	03-3823-2101
東京都豊島区	癌研究会付属病院内科	武本憲重	03-3918-0111
東京都中央区	国立がんセンター中央病院内視鏡部	後藤田卓志	03-3542-2511
東京都新宿区	社会保険中央総合病院内科	浜田 勉	03-3364-0251
東京都新宿区	慶応義塾大学病院内視鏡センター	熊井浩一郎	03-3353-1211
東京都新宿区	東京女子医科大学消化器病センター	光永 篤	03-3353-8111
神奈川県相模原市	北里大学東病院消化器内科	田辺 聡	042-748-9111
東京都港区	東京慈恵会医科大学内視鏡部	田尻久雄	03-3433-1111
愛知県名古屋市	名古屋大学医学部附属病院光学医療診療部	後藤秀実	052-741-2111
岐阜県岐阜市	朝日大学歯学部附属村上記念病院消化器内科	加藤隆弘	058-253-8001